香川大学硬式庭球部

KAGAWA Univ.Tennis Club

ご存じでしょうか、テニスは結構お金がかかるということを。そして強豪校ほど練習時間が長く、その分バイトする時間が少なくなるということを！

48代目男子主将の小川知樹さん（教育学部4年）と女子主将の米川彩紀さん（農学部4年）は、部活が続けられるのはOBの皆さんのおかげ、と声を合わせます。

「遠征費やボール代、ガットの張り替えなど、すぐにお金が飛んでいくんです！でも、うちはOBの先輩方のおかげで部費がすごく安いんです。テニスが続けられるのは先輩方のおかげです」と米川さんが言うと、「だからこそ応援してくださっているOBのためにも負けられない、という思いが強まります」と小川さんも頷きます。

「香川大学硬式庭球部」は香川大学の中でも古くからある部で、その設立は50年以上前にさかのぼります。現在の部員は男子29人、女子12人。現在、四国インカレ優勝・準優勝経験を持つ女子は1部リーグで活躍を続けており、男子は一時は5部リーグも経験しましたが、今や2部リーグまで着実に成績を上げてきました。昨年は2部で準優勝、1部リーグが手の届くところまで来ています。

入部する学生は高校までに硬式テニスをやっていたという経験者が多いものの、初心者の入部もあり、練習は男女仲良く、時に厳しく、時に和気あいあいと行われています。

しかしテニスは個人技であるがゆえに、学外だけでなく部内での競争もある厳しい競技。レギュラーになれない辛さなどで辞めていく部員もいるなかで、残ったメンバーには『テニスが好き、テニスを続けたい！』という気持ちが強く、その思いが『全員が全力で戦い、全力で応援をする』という香川大学の強さにあらわれています。今年の代の方針『互いに助け高め合う中、心技体を鍛えることで勝利を目指す』は、まさにそんなテニス部の厳しさと楽しさを表しています。

「団体戦において本気の応援は相手を認めていないとできません。こうして生まれた人間関係は卒業後も続き、将来にわたり大きな財産になります」と小川さん。部活で鍛え抜かれた心と体で、例年硬式庭球部は就職においても素晴らしい強さを発揮しています。

最後に2人に部の魅力を聞きました。

「わがテニス部は、練習メニューの設定やコートの手配、インカレ、王座などの大会運営も自分たちで行ないます。大変なこともありますが、続けると見えてくるものがあると思います。厳しい部活ですが、興味があったらぜひ入ってください」

競い合い 高め合う経験が 将来の財産になる

香川大学水泳部

KAGAWA Univ.Swimming Club

70代のOBもいる、伝統の「香川大学水泳部」。選手は全国国公立大学選手権水泳競技大会（通称「全国公」）やインカレ、国体出場など各大会で活躍しており、2009年の中四国インカレにおいては男子総合2位、女子総合4位という結果を出しています。

「中四国の競泳のレベルは他の地域に未だおよばないものの、年々そのレベルは上がってきています。僕らも四国同士や岡山大学などと交流し、中四国全体でレベルが上がるよう頑張っています」

と意気込みを語ってくれたのは部長の白井僚さん（工学部3年）。強豪チームとしては、やはり経験者が有利…？と思いがちですが、必ずしもそうではないのが大学生の面白いところです。

「初心者も入ってきますし、もちろんそういう学生は泳げるようになるところから指導するんですが、中には初心者からスタートして中四国インカレ決勝まで残った部員もいるんです」

その上達の秘密は「自主性」。白井さん自身は6歳からの経験者ですが、高校まで大学の水泳は別物と感じています。

「中高生の間は『水泳』というとスクールの指導が強く、『泳がされている』という気持ちになりがちです。しかし大学での水泳は『楽しいから泳ぐ、速くなりたいから泳ぐ』という雰囲気。目的意識があると自分で考えるようになるので上達が違ってきますし、練習中もみんな声を出し合いながら頑張っていますよ」

ちなみに、水泳部のプールでの練習はまだ水が冷たい4月中旬、16度くらいから行われています。

「本格的に始まるのは5月頃から全国公がある8、9月まで。週5回くらいの練習を行っています。オフシーズンは週2回筋トレや水中練習などを行っていますが、練習がオフのときは兼部している別のサークル活動に参加する学生もいますね。あとオフシーズンに頑張ることと言えばバイトでしょうか。伝統的に部活の後は上級生が1年生を食事に誘うので…みんな運動量がすごいのでよく食べるんですよ（笑）！」

大会の様子や、色んなレベルの人がそれぞれに水泳に取り組む練習風景からうかがえるのは、泳ぐことを楽しみ、挑戦する前向きな姿勢。

「先輩と練習メニューを立てるのですが、みんな『勝ちたい』という思いがあり、自ら動いてくれる。大会も高校とは違ったワイワイした雰囲気を楽しめるので、そういうところにも注目してほしいです。高校の大会などで、香川大学のジャージを着て『香川大学、どう？』と声をかけているので、香川大学に入学したらぜひ入部してください！」

学生は 楽しんで強くなる